

石神井浴いで加賀を満喫! 歴史ある宿場町の街

今回の探検は、飛鳥山停留場をスタートして、北区、板橋区の石神井川沿い、旧中山道を巡る散策コースです。北区・石神井川周辺は昔、滝のように流れが急で滝野川と呼ばれ風光明媚な場所だった。板橋区の川沿いは、加賀前田藩下屋敷跡があり、加賀・金沢ゆかりの施設や地名が残り、江戸時代から続く歴史あるスポットが数多く点在。いざ、出発進行!

飛鳥山
滝野川
板橋

オリエンタルな鐘樓門 ①「正受院(赤ちゃん寺)」



赤ん坊の納骨や供養をしていることから、「赤ちゃん寺」とも呼ばれているお寺。珍しい台湾風の鐘樓門がある。

大仏様じゃありません「大観音様」です ③「谷津大観音」



川沿いを歩いていると突如現れる大きな観音様。近所の寿徳寺が2008年に建立、台座を含めた高さ85メートル、重さ5トン。古くからの地元の地名から命名された。

とあらん オススメスポット

加賀百万石前田藩の下屋敷庭園だった
⑤「加賀公園」

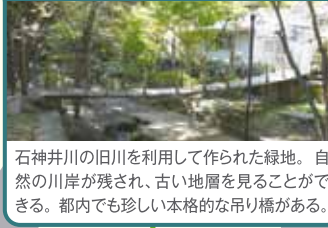


ここは、江戸時代、加賀前田藩の下屋敷庭園の築山だった場所。園内には板橋区友好交流都市の金沢市から贈られた、金沢にある前田利家を祀る尾山神社・神門のステンドグラス部分を模した記念碑がある。

金沢発見! ここは金沢・兼六園?

どこかで見た事がある石灯笼が…そう、この灯笼は金沢の兼六園にある微軫灯笼(ことじょうろう)のオブジェ。足が二股になっていて、琴の糸を支える琴柱(ことじ)に似ているのでその名が付いたといわれている。

都内でも珍しい吊り橋 ②「音無さくら緑地・緑の吊り橋」



石神井川の旧川を利用して作られた緑地。自然の川岸が残され、古い地層を見ることが出来る。都内でも珍しい本格的な吊り橋がある。

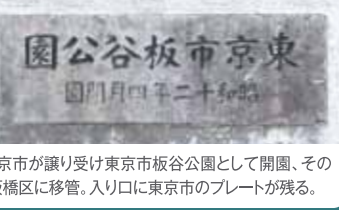
入り口には近藤勇の石碑が ④「寿徳寺」



本尊は木造の観音菩薩坐像の谷津子育観音。この観音像は谷津観音とも呼ばれている。また、板橋で処刑された新選組局長近藤勇の菩提寺で入り口には石碑がある。

板橋区最古の公園 ⑥「板谷公園」

明治以降、加賀藩下屋敷だったこの土地を、船運会社板谷商船の設立者板谷宮吉氏が取得。昭和12年、東京市が譲り受け東京市板谷公園として開園、その後、都立公園になり、昭和25年板橋区に移管。入り口に東京市のプレートが残る。



今回の探検コースは
約8km



昔の煉瓦工場の壁面が保存 ⑦「コミュニケーションステージ」



明治から終戦まで周辺にあった、火薬製造をしていた東京第二陸軍造兵廠板橋製造所の煉瓦の建物頭部をそのまま保存・復元したモニュメント。

区名由来の橋、今はコンクリート製 ⑧「板橋」



文献資料によると鎌倉時代には「板橋」の地名があったが、地名発祥の由来については、はっきりした史料はなく、一般的には、中山道で石神井川を渡った木の橋を「板橋」と呼んだといわれている。

悪縁を切ってくれる横 ⑨「縁切横」



江戸時代から板橋宿の名所。悪縁を切り、良縁は結んでくれるといわれている恋愛ハワースポット。

いつの時代も賑わっている ⑩「仲宿商店街」



石神井川にかかる板橋から、旧中山道仲宿交差点まで続く旧中山道にある商店街。通りにはいくつも歴史を紹介する石碑がある。



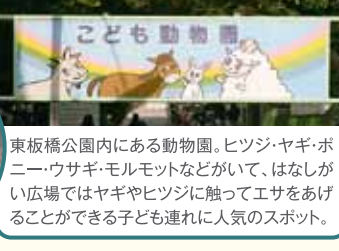
代々、新左衛門を世襲した本陣飯田家の屋敷跡。本陣には参勤交代で通行した大名や幕府の公用の武士、僧や名家などが休憩をしていた。

板橋宿で大名が休憩した ⑪「板橋宿本陣跡」



代々、新左衛門を世襲した本陣飯田家の屋敷跡。本陣には参勤交代で通行した大名や幕府の公用の武士、僧や名家などが休憩をしていた。

動物にふれあえる公園 ⑫「こども動物園」



東板橋公園内にある動物園。ヒツジヤギ・ポニー・ウサギ・モルモットなどがいて、はなしがいい広場ではヤギやヒツジにタッチしてエサをあげることができる子ども連れに人気のスポット。

●このパンフレットのデータは2012年11月現在のものです。●ウォーク中のケガ・事故等については責任を負いかねます。